

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

研究 0-1

1. 医学部・医学系研究科

研究 1-1

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
医学部・医学系研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

医学部・医学系研究科

I	研究の水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 研究成果の発表状況について、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）と第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）を比較すると、欧文論文数は1,029件から1,296件、学会発表数は534件から764件となっている。
- 特許出願数は第1期中期目標期間の29件から第2期中期目標期間の88件へ、特許取得数は第1期中期目標期間の2件から第2期中期目標期間の39件へ増加している。
- 科学研究費助成事業等の外部資金の総額は、第1期中期目標期間の約65億9,000万円から第2期中期目標期間の約75億6,000万円となっている。

以上の状況等及び医学部・医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に皮膚科学、救急医学の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、皮膚科学の「遺伝性皮膚疾患の原因の解明と治療の開発」、救急医学の「死後CTを活用した心肺蘇生中の胸骨圧迫による合併症の分析」がある。中でも「死後CTを活用した心肺蘇生中の胸骨圧迫による合併症の分析」は、救命措置で行われる胸骨圧迫に伴う合併症が高率に発生していることを明らかにし、救急医学分野のトップジャーナルに掲載されている。
- 特徴的な研究業績として、寄生虫学の「世界におけるエキノコックス、テニア条虫の種分化、分子進化研究」がある。
- 社会、経済、文化面では、特に食生活学の細目において特徴的な研究成果がある。

- 特徴的な業績として、食生活学の「抗酸化機能食素材データベースの構築」があり、抗酸化機能に着目した食品素材評価を行い、北海道における機能性食品の開発に必要なデータベースを構築している。

以上の状況等及び医学部・医学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、医学部・医学系研究科の専任教員数は 278 名、提出された研究業績数は 58 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 50 件（延べ 100 件）について判定した結果、「SS」は 1 割未満、「S」は 5 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 19 件（延べ 38 件）について判定した結果、「S」は 6 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 知的財産に関する規程の整備や知的財産管理アドバイザーの配置等により、特許出願数は第1期中期目標期間の29件から第2期中期目標期間の88件となっている。
- 科学研究費助成事業等の外部資金の総額は、第1期中期目標期間の約65億9,000万円から第2期中期目標期間の約75億6,000万円となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 皮膚科学、救急医学等の分野で優れた研究論文を発表し、ヨーロッパ蘇生協会のガイドラインへの引用等の成果がある。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。